

連続放火火災データ

「連続放火火災発生時の報告について」（平成15年7月8日付け消防予第184号・平成16年3月31日付け消防予第53号）により、全国の消防本部の協力を得て連続放火火災の実態について調査を行っている。

平成16年3月2日～11月30日までに31消防本部から、48事案、323件の報告データは以下のとおりである。

○連続放火火災の発生状況放火火災の現状

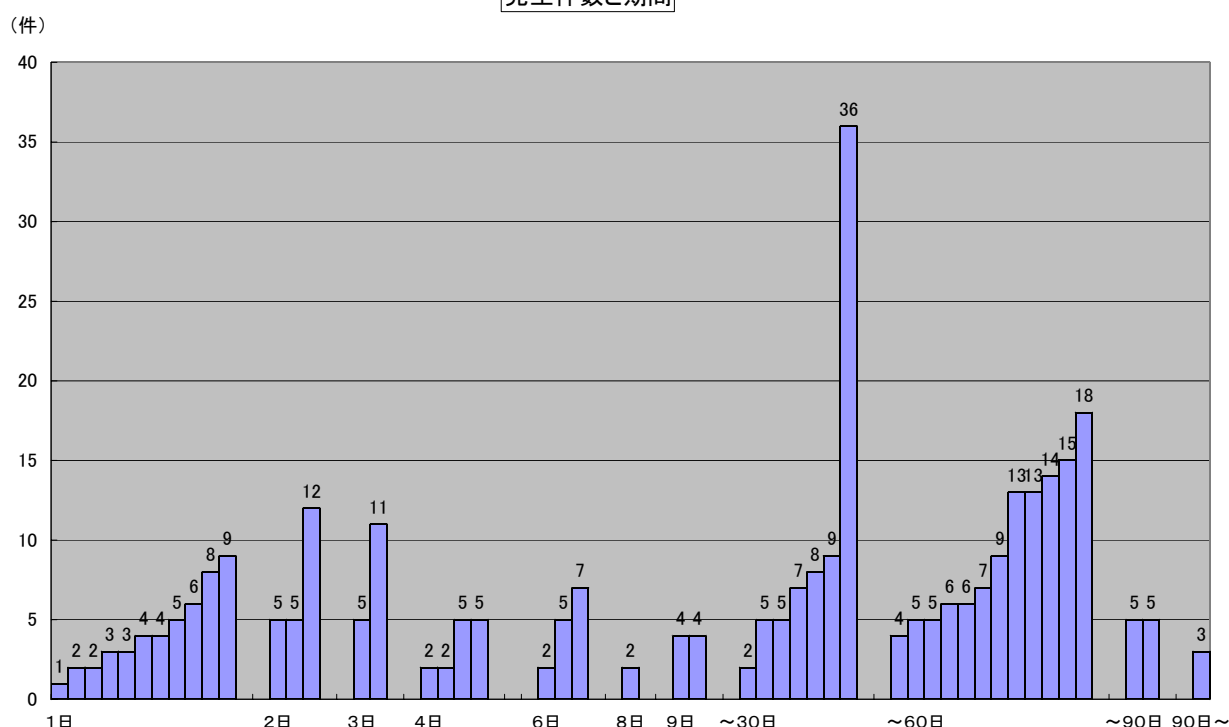
1. 発生件数と期間

各消防本部（31本部）から報告のあった連続放火火災37事案を、発生期間別にグラフ化すると以下のとおりである。

7日間の間に22の事案が集中しており、全体の40%を占めている。さらに、30日間でみると32事案67%、60日間では44事案92%である。

また、連続放火火災の発生件数は1事案平均6.7件となっている。

発生件数と期間

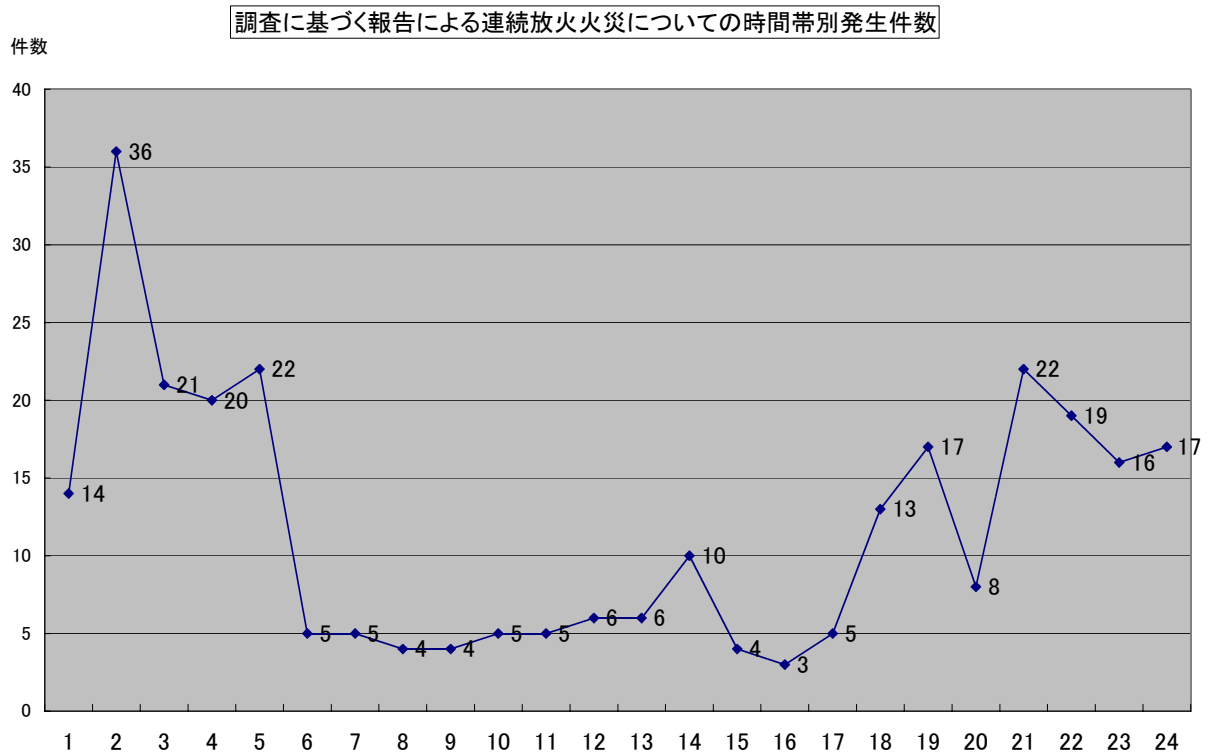


## 2. 時間帯別発生件数

連続放火火災と判断され、報告のあった323件の放火火災の時間帯別発生件数は以下のとおりである。（時間不明の36件は除く。）

最も発生件数が多いのが2時の36件、次いで21時、5時の22件の順となっており、最も発生件数の少ないのが16時の3件である。

放火発生の傾向としては、人目につきにくい就寝時間帯の発生率が高い。



### 3. 焼損物件数

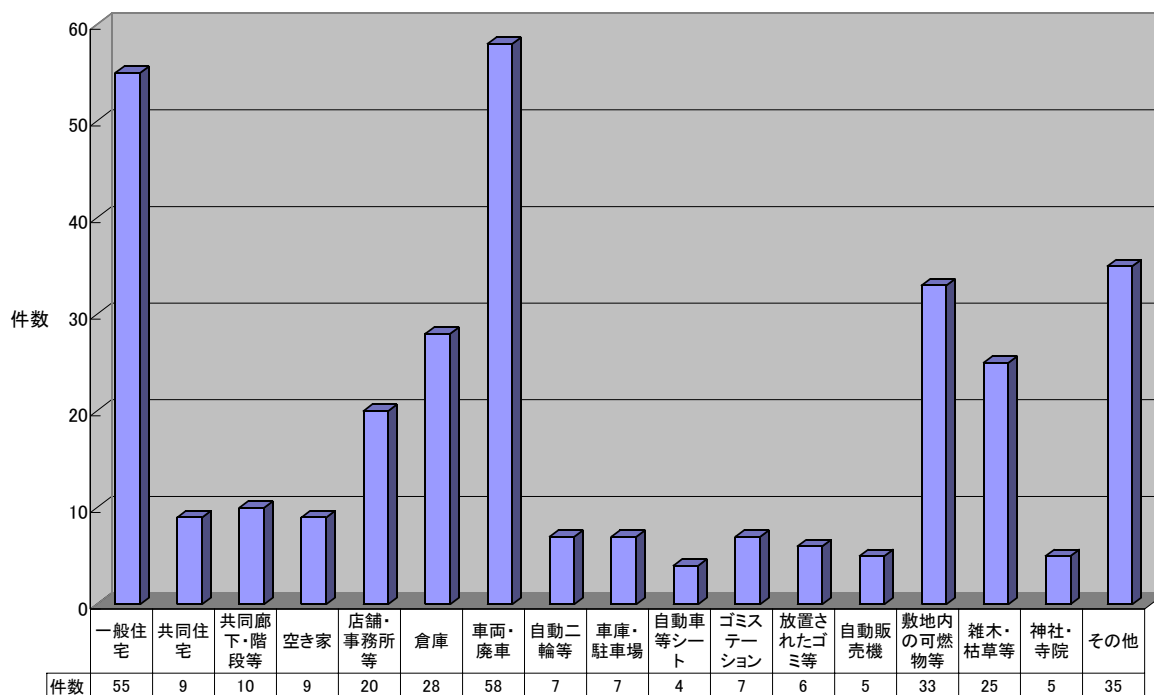
連続放火火災と判断され、報告のあった323件の放火火災の焼損物の内訳は以下のとおりである。

最も件数の多いものは、「車両・廃車」の58件（18%）、次いで「一般住宅」の55件（17%）、「敷地内の可燃物」の33件（10%）の順となっている。

これについて、廃車等を放置させない敷地内の可燃物を整理するなど、住民一人ひとりの日頃からの注意により、放火発生を減少させることができると考えられる。

この他、住宅に関しては、「一般住宅」、「共同住宅」、「共同住宅の廊下・階段」、「空き家」の合計が59件となっており、全体の35%を占めている。

焼損物別件数



#### 4. 1日2件以上発生した放火火災の時間帯別件数

1日に2件以上発生した放火火災の時間帯別件数については、119件の報告がありとなっており、全放火火災件数の半数以上（56%）を占めている。

また、1日に2件以上発生した放火火災のうち、30分以内に続けて発生した件数は72件（61%）と6割を占めている。

さらに、1件の放火発生から1時間以内に発生した火災件数は、89件（75%）で7割以上が1時間以内に発生している。

